

【小浜市環境基本計画の施策体系】

基本目標	基本施策
「海、山、河 誇りの持てる豊かな自然 住み心地の良いまち おばま」 小浜の望ましい環境像	郷土の自然を守るまち (自然と環境との共生)
	地球規模で考え みんなで取り組むまち (地球温暖化対策の推進)
	資源が循環する 環境にやさしいまち (循環型社会の構築)
健康で安全なまち (生活環境の保全)	3R (リデュース・リユース・リサイクル) の推進
	ごみの適正処理
	大気環境・水環境の保全
みんなで環境を 学び協働するまち (教育・学習・協働の推進)	騒音・振動の防止
	有害化学物質の安全管理
	良好な景観の保全、緑化の推進
環境教育・学習の推進	環境情報の整備・提供
	環境保全活動の推進

重点プロジェクト

市の環境に対する施策のうち、早急に必要なもの、本市の環境問題として重要なもの、望ましい環境像の実現に向けて大きな効果があるものなどを継続し、優先的かつ重点的に取り組みます。

- ①食をとりまく環境の改善・環境調和型農林水産業の展開
- ②次世代自動車の導入促進
- ③循環型のまちづくり
- ④ごみのないきれいなまちづくり
- ⑤環境学習プログラムの展開



やさしいって、大切 特集 郷土の自然を守るまち

小浜は、風光明媚な若狭湾の中央部に位置し、自然豊かで四季の輝きを放つ海や山川、豊富な海産物や滋味あふれる農産物などの食材に恵まれてきた地域です。

しかし、近年私たちの身の回りでは、生き物が生息できる場所の消失や、外来生物の生息域の拡大によって、身近な場所であつて見られた生き物が減少しています。地球温暖化による気候変動や生態系への影響なども懸念されています。

美しい小浜の環境を大切に守り育て未来に引き継いでいくためには、これまで以上に市民・事業者・行政の協働により、郷土への誇りをもって多くの環境問題に取り組んでいくことが不可欠です。

■問い合わせ 環境衛生課 ☎ 64・6016



小浜市環境審議会 会長
ひろし しんご
廣石 伸互 さん (68 歳・大津市)

農学博士。福井県立大学海洋生物資源学科教授を経て、現在、滋賀県立琵琶湖博物館特別研究員(環境微生物学)、福井県立大学名誉教授。小浜市環境審議会会長として小浜市環境基本計画の改訂に携わる。

これまで、人間は自らにとっての便利さを追い求め、自然に対して負荷をかけ続けてきました。この人間至上主義という考え方を改めないかぎり、そのツケは自分たちに必ず返ってくるようになります。日本でもかつて公害が大きな社会問題となりました。ある程度改善されてきたとはいえ、解決すべき環境の課題は多く残っています。その解決のためには、一人一人の住民として市町村が持続可能な循環型の社会を意識しつつ、自分たちの地域を見直し、具体的な目標を設定して、その達成に取り組む必要があります。

インタビュー

小浜の豊かな自然 まずは知ることから

世代を超えて良好な環境を維持するためには、環境教育の充実が必要不可欠です。小浜は、豊かな山川里海に囲まれ、地下水にも恵まれています。最近では、豊富な雪を利用した雪室活用(上根来区)など特徴的な活動も増えています。このように、小浜は地域の活性化を模索しつつ、総合的な環境教育が可能な地域です。まずは住民が地域の環境の状況を知ることが大切です。特に小浜の子どもたちが、地元の自然や生き物にふれ、学ぶことができるような環境教育の充実に、市民、行政、学校、大学が今まで以上に連携して取り組んでほしいですね。



小浜市環境基本計画改訂版は市公式ホームページ(QRコード参照)に全文掲載



「小浜市環境基本計画」とは？
市では、平成24年3月に「小浜市環境基本計画」を改訂し、取り組みを進めてきました。計画の期間は平成33年度までの10年間とし、5年目となる28年度に施策内容や数値目標などの見直しを行いました。「海、山、河 誇りの持てる豊かな自然 住み心地の良いまち おばま」。この環境像を実現するために5つの基本目標(次ページ参照)に沿ってさまざまな施策を進めています。

▶この外来生物にも注意◀



【セイトカアワダチソウ】



【アライグマ】



【ブラックバス】



【アメリカザリガニ】

みんなが地域に目を向けるきっかけに



口名田むらづくり推進委員
大澤 公生 さん (62歳・下中井)

口名田地区では、平成27年から外来種であるオオキンケイギクの駆除に取り組んでいます。むらづくり推進委員会で生活環境活性化委員長を務める大澤さんに話を聞きました。「まずは実態を知ってもらうことが大事だと考えました。委員で地区内を調査して、オオキンケイギクの生息地マップを作りました」マップを持って駆除を依頼してまわることで、「地区の皆さんと交流する機会が増えました」と言い、「こういう活動をきっかけに住民間

インタビュー

の会話がもっと増えるところうれしいですね」と笑顔をみせます。2年間の活動が実り、地区の生息地からはオオキンケイギクを駆除できましたが、「強い繁殖力を持つので油断できません。外来種を根絶させるには地道で長い取り組みが必要です」と気を引き締めます。「南川や里山と、そこに生息する希少な動植物など、口名田にはすばらしい自然が残っています」と話す大澤さん。「任んでいると、身近すぎて、そういう価値を見落としがちです。駆除を通して、多くの人に「ここにしかないものの良さ」に気づいてもらえるよう、頑張りたいです」と活動への思いを口にしました。



【マメ知識】 県重要里地里山30地区には、市内から「口名田地区」と「飯盛地区」が登録されています。両地区では県レッドデータブックに掲載されている希少な動植物の生息が確認されるなど、数多くの自然が残っています。

この外来生物が危ない！身近に潜む危険なやつら

近年、日本各地で、本来の生息、生育以外の地域から、入り込んだ「外来生物」が爆発的に増え、社会問題となっています。小浜でも、外来生物による被害は年々増加傾向にあります。多様な動植物が暮らす、「本来の小浜の自然環境」を、私たちの手で守り育み、後世へと残していきましょう。

【オオキンケイギク】

強い繁殖力

オオキンケイギクは強い繁殖力を持ち、地域に本来合った草花が取って代わられるなど、景色や生態系が一変する恐れがあります。

駆除方法

生えていたら、根から引き抜き、乾かした後、種が飛ばないように、燃やすゴミに出してください。クリーンアップ大作戦や地域ボランティア清掃などでの駆除の相談は、環境衛生課まで。

外来生物とは

従来その地域におらず、人によって持ち込まれた動物や植物。外来生物法で指定された生物を「特定外来生物」、法律の規制はないが、在来生物に悪影響を与える生物を「要注意外来生物」と呼びます。

花

橙黄色
5～7月ごろ咲く
直径5～7センチ



葉

葉は下のほうについている。両面に荒い毛がある



全体

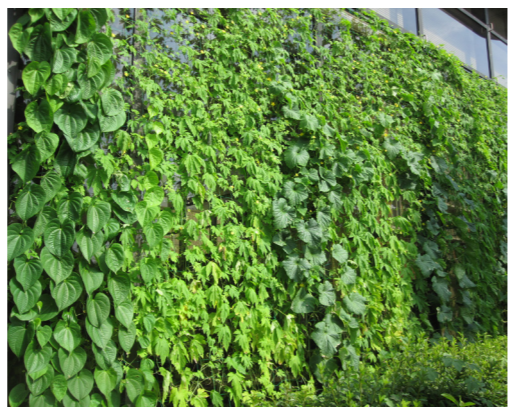
高さ30～70センチ
多年生
毒性なし



市では、地球の温暖化を防ぐ手段の一つとして、「グリーンカーテン」を推奨しています。グリーンカーテンとは、夏場にゴーヤなどのつる性植物で作る自然の日よけで、周囲の気温や室温を下げる効果があります。グリーンを増やして、環境にやさしいまちづくりを進めましょう。

グリーンカーテン講習会

- 市では、初めてグリーンカーテンにチャレンジする人向けの講習会を開催します。
- ▼とき 5月27日(土)13時～16月3日(土)10時～13時
- ▼ところ 市庁舎前(大手町)
- ▼参加費 無料
- ▼定員 各先着10人
- ▼準備物 軍手、スコップ、汚れてもよい服装
- ※参加者にはグリーンカーテンセット(苗3本、プランター・土・肥料を各1個分)を無料提供します
- ▼申し込み 環境衛生課 ☎64・6016



毎年市庁舎で作っているグリーンカーテン

誇りが持てるまちを目指して

市では、「グリーンカーテン」の普及に力を入れています。市民の皆さんにも取り組みやすいように、講習会やコンテストを計画しています。ほかにも、外来生物の駆除や生物多様性の保全など、身近な自然環境を守る活動を推進することで、市民一人一人が誇りを持てるようなまちを目指していきます。



環境衛生課 藤田 晃弘 技師